

3. 阪急六甲駅周辺に建つ小事務所

開講年次：学部2回生 前期

[担当教員]

北後明彦(教授) 中江研(助教) 山口秀文(助教)

[Teaching Assistant (修士1年)]

家門生木 (A61) 西田 翔 (A61) 粉川 壮一郎 (A61)

■課題とその趣旨

オフィスビルは、現代社会と都市を代表する建築であるが、近年その位置づけが大きく変わろうとしている。オフィス自体のもつ機能や役割が時代の要請から拡大・変化してきているからであるが、同時に建築空間として普遍的な性格をもっていることも確かである。

今回の課題では、次の4つの観点からのアプローチが大切である。

- (1) 場所のコンテクストの解読
- (2) 内部から外部への考察
- (3) 街並み(景観)としての配慮
- (4) 生活空間としての諸室の提案(考察)

さらにこの課題を通じて、建築の空間感覚(特にスケール感など)と図面表現との具体的関係について理解を求める。

■事務所の概要

・このオフィスは特定の企業の自社ビルとし、その業種は、例えばファッションあるいはデザイン関連の企業等自由に想定すること。建物内に商品展示やプレゼンテーションのための空間を適宜設けてもよい。

・常時 50~60 人程度の人が執務するものとするが、男女比、業務部門の構成等適宜想定すること。オフィスの機能は、主に企画・立案部門と管理・運営部門が中心で、商品等の製造・流通部門等は近くの別の場所に立地しているものとする。

・単なる業務空間というのではなく、地域と密着したプラス・アルファの機能を果たすため、展示、地域の催しなどの会場としての機能をもった建物の提案し公開性、地域への寄与を何らかの形で具体化する。

■敷地

・阪急六甲駅周辺の三カ所(A,B,C)の敷地から一つの敷地を各自選ぶ。

・敷地面積はいずれも約 600m² (20×30m) 程度であるが、形状と寸法の詳細は適宜想定する。

・敷地は平坦で、道路との高低差はないものとして計画してよい。

・周辺環境などの計画条件は適宜想定してよい。容積率指定は 200%。

■建築概要

・構造規模：鉄筋コンクリート造 3~4 階建てを原則とする。

・延べ面積：1000 ~ 1200m²

・屋外に外来者用の 2~3 台のパーキングスペースを確保すること。



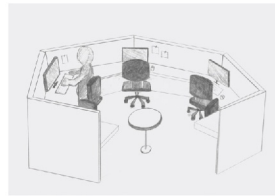
国土地理院地理院地図 (<https://maps.gsi.go.jp/>) をもとに編集者作成
課題敷地

人の集まる事務所

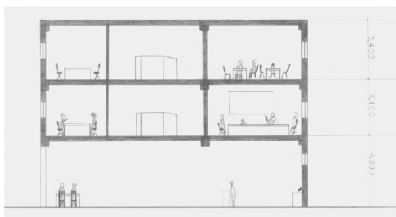
岡村淳美



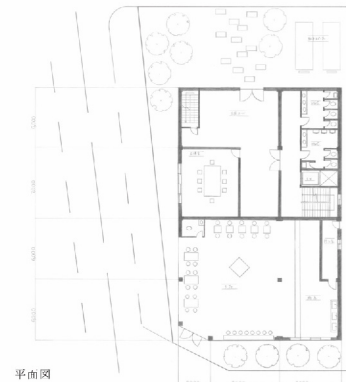
外観パース



内観パース



断面図



平面図

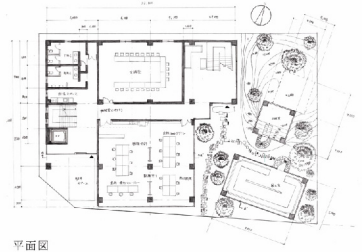
街と森とのグラデーション

堀内啓祐

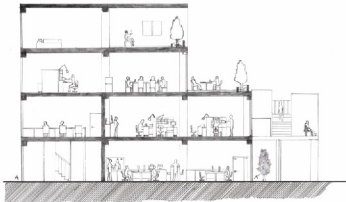
東西で森的空間から街的空間へと性質が大きく変化する敷地の特徴を生かし、ふたつの空間の間のグラデーションとなる事務所とした。芸術的な側面と商業的な側面を併せ持つアニメーション制作という職能と敷地の二面性をリンクさせ、どちらの側面も活かせる事務所を目指した。



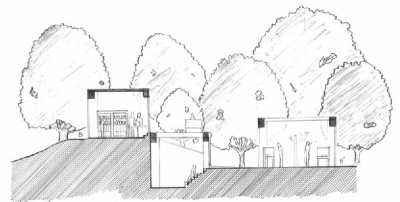
外観パース



平面図



断面図



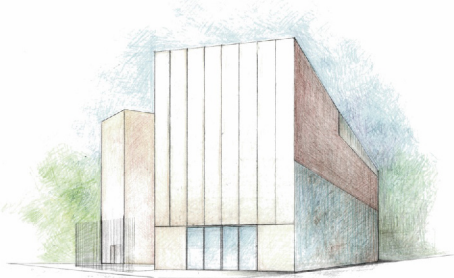
断面図

Active/Static

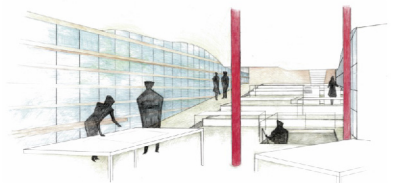
谷大蔵

フリーアドレスの導入、室名による用途制限の解消、一室空間の執務室のボリュームの緩急、マグネットスペース、執務室内での人の動線…

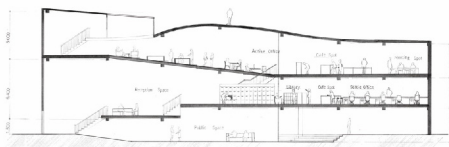
さまざまな要素が働く人、地域の人の移動を誘引し、コミュニケーションや気付きを誘発する。そんな社内連携の輪と社外の人との縁を広める事務所です。



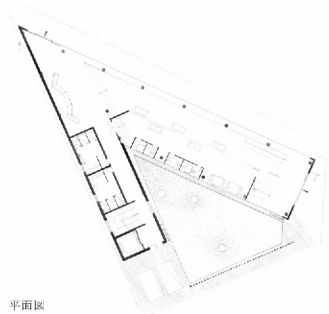
外観パース



内観パース



断面図



平面図